

新技術と社会づくりに関する特別委員会 議事次第

令和 7 年 6 月 26 日 (木)
午 後 1 時 3 0 分 ~
於 : 第 5 委 員 会 室

1 開 会

2 所管事項の調査

「産業創造リーディングゾーンにおける取組について」

3 閉会中の継続審査及び調査

4 今後の委員会運営

○ 管外調査

日 程 : 令和 7 年 8 月 25 日 (月) ~ 26 日 (火)

5 そ の 他

6 閉 会

新技術と社会づくりに関する特別委員会 出席要求理事者名簿
(令和7年6月府議会定例会)

【総合政策環境部】	
脱炭素社会推進課長	中 埜 博 之

【商工労働観光部】	
商工労働観光部副部長 (産業創造担当)	山 本 太 郎
産業振興課長	安 達 雅 浩
染織・工芸課企画参事	里 村 佳 代
文化学術研究都市推進課長	芝 田 雅 貴

【農林水産部】	
流通・ブランド戦略課参事	藤 田 信 也

(計 6 名)

世界に挑戦する京都のオープンイノベーション

産業創造リーディングゾーン

未来を拓く京都産業の実現

令和7年6月26日
商工労働観光部産業振興課

1. 産業創造リーディングゾーンの形成に向けて 3 ~ 4

2. 脱炭素産業（ZET-valley構想） 5 ~ 10

3. クロスメディア産業 11 ~ 13

4. アート&テクノロジー 14 ~ 17

1. 産業創造リーディングゾーンの形成に向けて

3

産業創造リーディングゾーンのコンセプト

伝統産業から先端産業まで、多様な業種が集積している京都産業の強みを活かした府域の北から南までの「産業創造リーディングゾーン」の展開

地域が持つ資源など、そこにしかない強みを生かしながら、

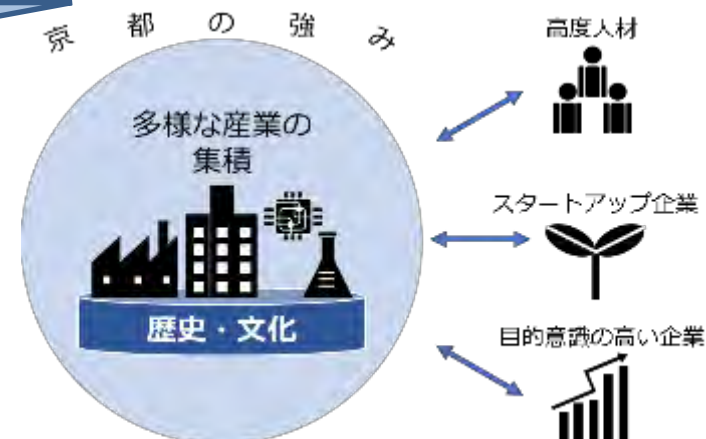
- 国内外から注目されるテーマを掲げ、
- イノベーションに取り組む企業の集積を図り、
- 次代の産業を創出する拠点づくりを目指す

リーディングゾーンの効果を京都府全域に波及し、均衡ある発展へ!

京都府域に世界をリードする産業創造拠点を整備し、オープンイノベーションが持続的に起こるエコシステムの構築に向けて

具体的な取組

- 国内外の大学・研究機関や企業とのネットワークの強化
- 幅広い企業・大学が参画する研究会の開催
- 産学共同研究等による新技術・新製品開発の促進
- スタートアップの育成
- 高度人材の紹介や人材育成等 等



現在、8つの分野で、京都産業の特性を生かした取組を府内各地で展開中

1. 産業創造リーディングゾーンの形成に向けて

4

世界に挑戦する京都の オープンイノベーション

環日本海物流促進

先端技術を取り入れた物流の実証と研究により、京都の産業や地域を支える強靱かつ持続可能な物流システムを形成

主な拠点

京都舞鶴港 [舞鶴市]
北部工業団地 [綾部市・福知山市]

ヘルス・スポーツ産業

スポーツ&ウェルネス（心と体の健康）、フードテック産業等をテーマに新産業創造に向け、産学公連携による多様な産業の集積を推進

主な拠点

京都トレーニングセンター [京丹波町]
府立京都スタジアム [亀岡市]

アート&テクノロジー

京都の文化・芸術の力を生かし、アートとテクノロジーを融合させた新たな産業を創造し、次世代を担う起業家や企業の中核を担う人材を育成

拠点：アート&テクノロジーヴィレッジ京都 [大山崎町]

フードテック産業

世界的な課題である人口増加に伴う「食」の量と質の確保などの解決に取り組む国内外の研究機関やスタートアップ企業等の集積を促進

主な拠点 けいはんなフードテックヒル [京田辺市・精華町]

シルクテキスタイル産業

世界最高レベルのシルクと染めと織りの技術を活用したテキスタイル産地を形成

主な拠点

丹後テキスタイルパーク [京丹後市]
西陣・堀川地区 [京都市]

脱炭素産業

自然エネルギーや豊かな自然環境を由来とする新産業の創出・地域活性化を推進

拠点：サステナブルパーク [宮津市]

クロスメディア産業

映画・ゲーム・アニメ・マンガ関連企業が集積するという世界でも珍しい京都の強みを生かしたコンテンツ産業の育成

拠点 太秦メディアパーク [京都市]

脱炭素産業

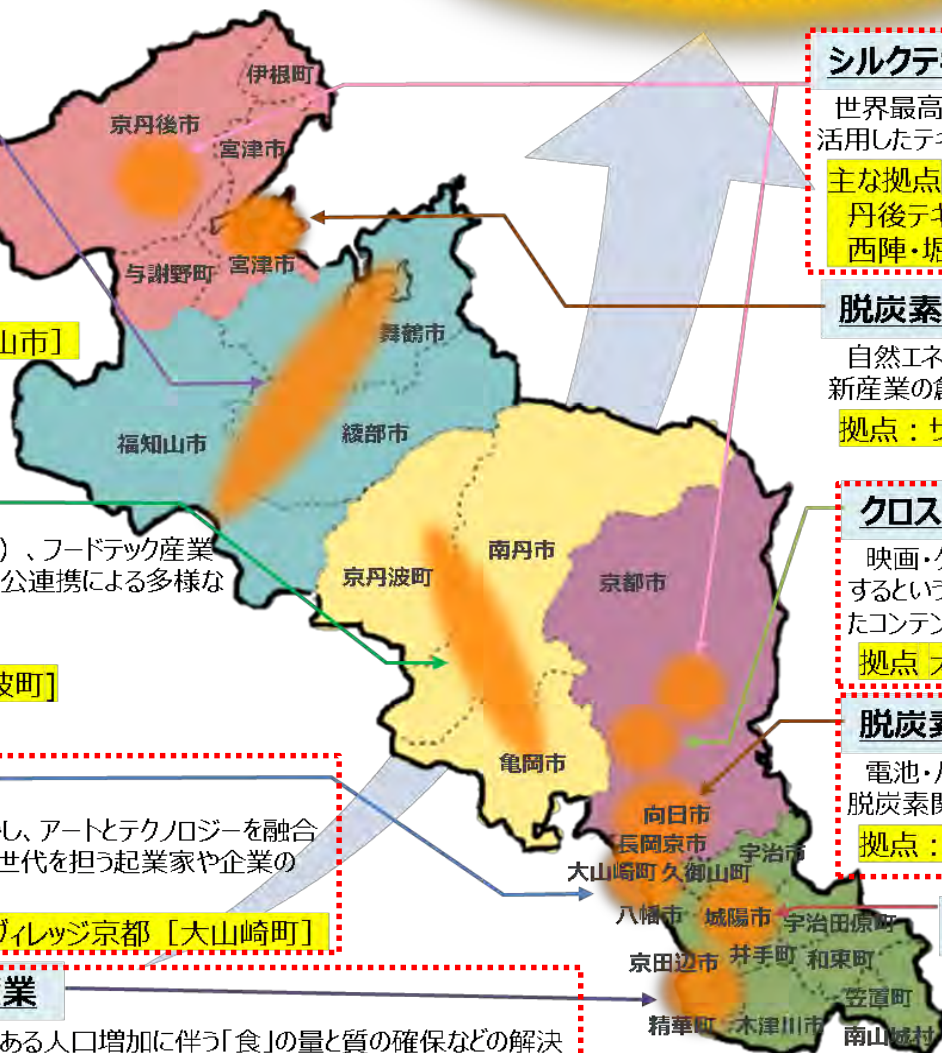
電池・バイオ等のテクノロジーの集積を生かした脱炭素関連企業の共創の場を創設

拠点：ZET-valley [京都市・向日市]

新名神・近未来都市形成

新名神周辺エリアで、関西文化学術研究都市等の研究機関と連携し、先端技術を盛り込んだ近未来都市を形成

拠点 城陽市東部丘陵地 [城陽市]



2. 脱炭素産業（ZET-valley）－目指す姿－

5

ZET-valleyが
目指すこと

ゼロカーボンものづくりによる
ゼロカーボンまちづくり



地産地消型社会

石油から空気へ、地方が最先端へ、制約から拡張へ

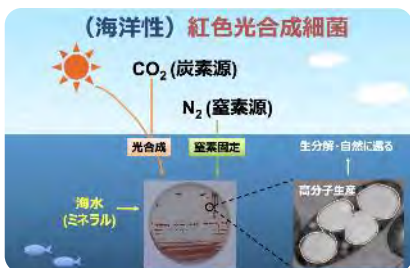
ZET-valleyリーディングゾーン

EV・バッテリー・バイオものづくり関連企業・研究機関が集積し、
都市部故に新技術が希求されるゾーン

(交流・共創・実証・実装の拠点)



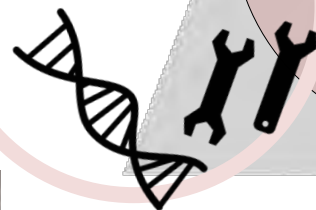
ドローン×森林解析AI
(樹種、生育状況、炭素蓄積量の推定)



CO2、窒素、太陽光、海水を
資源に肥料、飼料、繊維、代
替プラスチックを作る。

府北部

バイオものづくり
ゾーン



北部と南部が接する
京都府中央部

EV・バッテリー
ゾーン



府南部



BIND Battery ®内蔵電源

EnePOND ®によるリユースバッ
テリー活用EV急速充電



バイオマス熱分解技術による竹林高速炭化

2. 脱炭素産業（ZET-valley）－推進体制等－

6

- 「ZET-valley」の形成に向け、**京都府、向日市、JR西日本、京都銀行の4者間で連携協定を締結**し、推進体制を構築。それぞれのリソースを活用し、**JR向日町駅再開発**を通じて**脱炭素関連企業の誘致や拠点の整備・誘致**を協力して推進

「ZET-valley形成に関する連携協定」の締結 2023年3月2日「ZET-summit 2023」にて



- 主な協定事項**
- ① 産学公連携によるオープンイノベーションの推進
 - ② 共創プロジェクトの創出・実証・実装の推進
 - ③ 共創プロジェクトの事業化への支援
 - ④ 国内外からの脱炭素テクノロジー関連企業の誘致
 - ⑤ スタートアップのための拠点の整備・誘致
 - ⑥ 脱炭素テクノロジー集積に向けた情報発信

産学公連携によるオープンイノベーションの推進

- ▶ オープンイノベーションの起爆剤として、国際カンファレンス「**ZET-summit**」を4者による実行委員会で共同開催

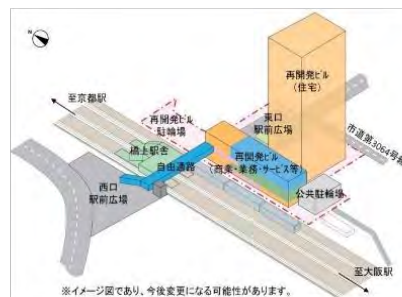


(参考：画像)
「ZET-summit 2024」における
「ZET-valley」ロゴのお披露目



スタートアップのための拠点の整備・誘致

- ▶ JR向日町駅前の再開発と連動し、**スタートアップ支援施設の整備・誘致**をそれぞれのリソースを活用して推進



駅前広場・自由通路等の開発と、都市計画道路の新設等を通じて、駅周辺のまちづくりを展開。
(令和10年度まちびらき予定)

(出典) 向日市ホームページ

2. 脱炭素産業（ZET-valley）－共創プロジェクト－

7

- ZET-valleyを実証フィールドに、得られた成果を全国へ展開し、脱炭素テクノロジーの早期の社会実装を後押し

EV

- ・eVTOL産業への参画促進
- ・表面摩擦抵抗の低減のための鮫肌リブレット技術

バッテリー

- ・生成AIを活用した電池等、新規材料探索

EV・バッテリー

- ・GeO₂（二酸化ゲルマニウム）新規パワー半導体材料
- ・インクジェット印刷を用いた独自のアディティブ製法による低環境負荷電子回路基板
- ・EnePOND®を活用したEV急速充電への応用



リユースバッテリーを使用した
EV急速充電器



電動化されるモビリティの安全性評価
のため、デジタルフライングカーの開発

バイオものづくり

- ・ゼロカーボンバイオ産業創出による資源循環共創拠点
- ・矯正イネを用いたメタンガス排出ゼロ循環稲作
- ・未利用食材を原料にしたコンクリート並み強度材料
- ・バイオマス熱分解技術による竹林高速炭化

プライシング等

- ・「土に還る」自然由来のプラスチックを活用した新時代のライフスタイル提案
- ・CO₂ボランタリークレジット・プラットフォーム
- ・ドローンとAIによる竹林CO₂吸収量モニタリング
- ・衛星画像を用いた森林CO₂吸収量推定
- ・CO₂分離回収のためのワンパーパス技術で低コスト化



人工衛星データから、
森林等の自然環境解析



人工シルク繊維
（西陣織と連携し試織実施）

2. 脱炭素産業（ZET-valley） – 社会実装事例 –

8

- 令和7年2月、**ZET-valley初の社会実装として、EV急速充電器を活用**した事例を創出

産 × 産 リユース・バッテリーを活用したEV急速充電器「EnePOND® EV Charger」開発（EV・バッテリー分野）

京都発スタートアップ「CONNEXX SYSTEMS」と、EV車体開発企業「PUES」の連携により、**充電ポート本体にリユースのバッテリーを付加することで、大規模な高圧電気工事不要かつ、環境負荷も低い新たな充電ポート**を開発。EV普及の障壁となっている「充電設備の不足」問題の解決へ寄与する。

従来モデル

充電に時間がかかる



電柱



充電ポート



電気自動車

または



高圧電気工事

高圧電気工事が必要
費用・手間の負担大



充電ポート

急速充電



電気自動車

新モデル

三菱ふそう・トラックバス㈱の
電気小型トラック「eCanter」の
使用済バッテリーをリユースし
登載した環境に優しい新モデル



「eCanter」と「EnePOND® EV Charger」

高圧工事が不要



電柱

AC



バッテリー付
急速充電器

急速充電



電気自動車

2025年2月から向日市で実証開始、2026年商業化へ

2. 脱炭素産業（ZET-valley）－インキュベーション施設－

9

- 脱炭素テクノロジースタートアップ支援施設「ZET-BASE KYOTO」を令和7年4月21日に開設

概要

- ①脱炭素関連スタートアップ企業の集積、②オープンイノベーションの推進、③ZET-valleyの世界発信及び④脱炭素テクノロジーのまちでの実証等の推進を目的としたインキュベーション施設
- 脱炭素分野のビジネス領域において、あらたな価値を生み出すことに意欲的なスタートアップ企業などを専門のインキュベーションマネージャー等がサポート

立地

- JR向日町駅から徒歩2分、阪急東向日駅から徒歩5分
- 京都フィナンシャルグループMUKOUビル3階

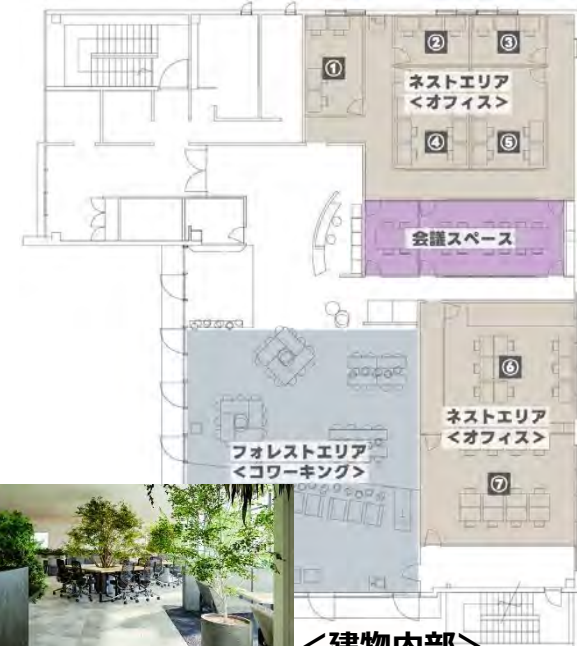
機能

- フォレストエリア：イベント兼コワーキングスペース
- ネストエリア：創業間もない企業向けの数人用スペースと、資金調達を終えた企業や大手企業の新規事業部等が10人前後で作業できるスペース

京都府 × 京都銀行 ZET-BASE KYOTO



＜建物外観＞

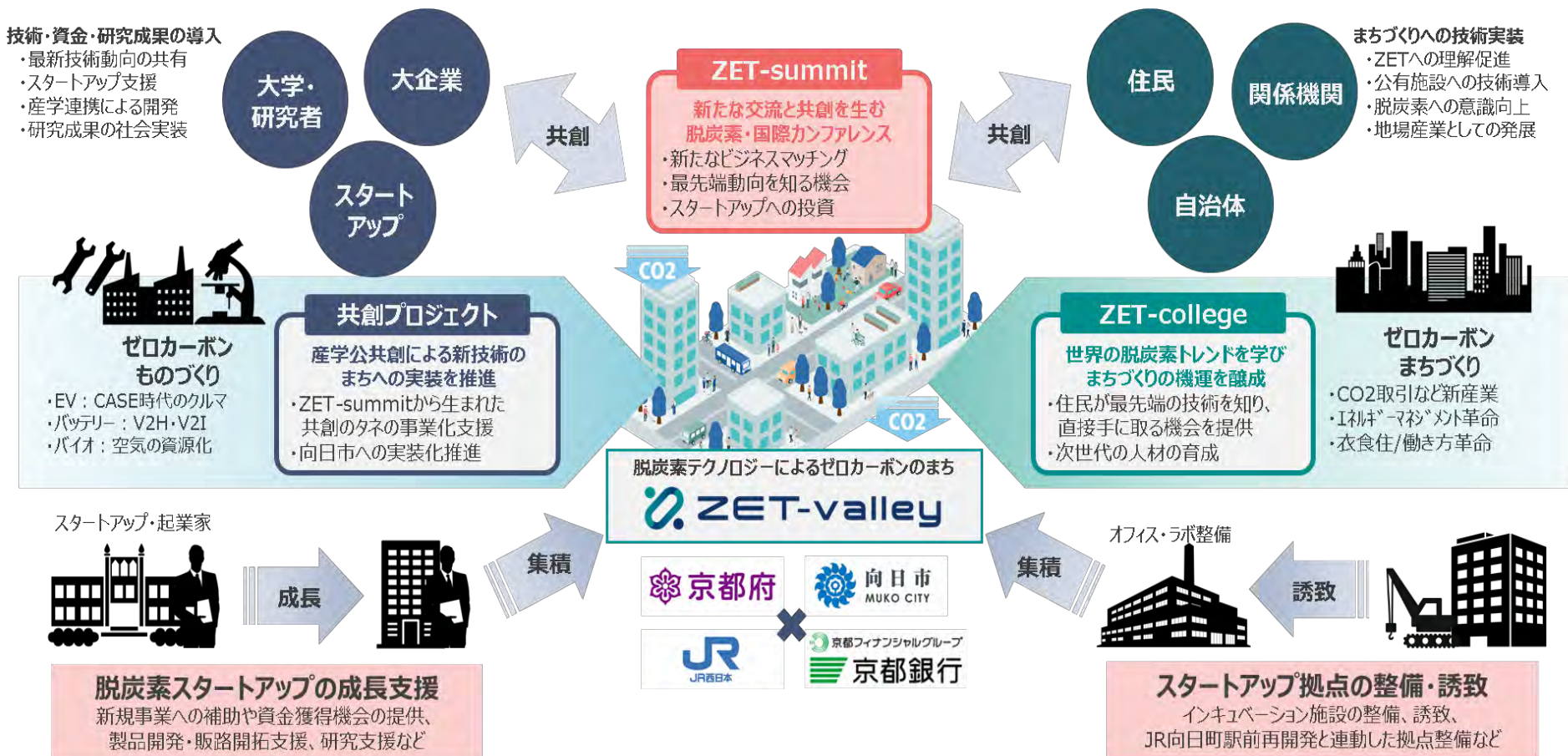


＜建物内部＞

2. 脱炭素産業（ZET-valley）－まとめ－

10

- 企業向け、大学向け、住民向け、自治体向けなど、あらゆる角度から脱炭素テクノロジー（ZET）の社会実装を進め、産学公連携でゼロカーボンのものづくりによるゼロカーボンのまち「**ZET-valley**」の形成を目指す



3. クロスメディア産業 ー目指す姿ー

11



「太秦メディアパーク」構想

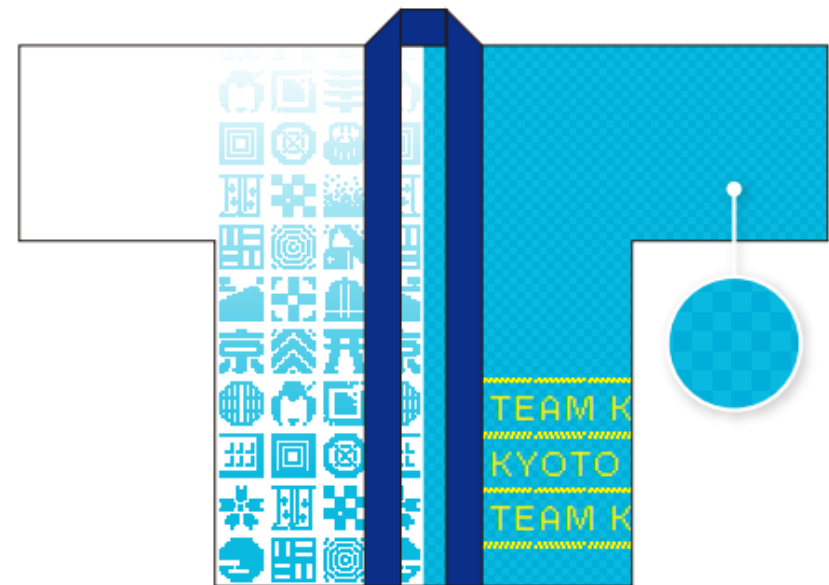
- 映画・映像、アニメ、ゲーム等のコンテンツ関係企業、DX・ICT関連企業が集積し、教育、ものづくり、医療、観光等との異分野融合によって、世界をリードするオープンイノベーション拠点を目指す



3. クロスメディア産業 ー新たな取り組みー

府市連携 “サマーコンテンツシリーズ”

- 国内最大級のインディーゲームの祭典「BitSummit」とに西日本最大級のマンガ・アニメイベント「京都国際マンガアニメフェア（京まふ）」、コンテンツ関連のスタートアップのピッチコンテスト「太秦 NINJA PITCH」を、“サマーコンテンツシリーズ”として、共同ポスターやロゴ作成など府市連携で、共同プロモーションを実施



法被イメージ

ポスターイメージ

3. クロスメディア産業 ークリエイター育成ー

「太秦メディアパーク」での取り組み クリエイター育成、コンテンツイノベーションの創出



4. アート&テクノロジー – 目指す姿 –

14



京都府の**文化・芸術の力**を生かし、**アートとテクノロジーを融合**させた**新たな産業を創造し、起業を促す**とともに、次世代を担う起業家や企業の中核を担う**人材育成を推進**

アート&テクノロジー・ヴィレッジ京都 (ATVK)

令和5年10月31日オープン@大山崎町



<入居企業：10社>

- ・マクセル株式会社（大山崎町）
- ・株式会社シロク（東京都）
- ・株式会社HESTA大倉（大阪府）
- ・日本テレネット株式会社（京都市）
- ・アンカー・シップ・パートナーズ株式会社（東京都）
- ・濱田プレス工業株式会社（東大阪府）
- ・ヘッドスプリング株式会社（東京都）
- ・KPMGコンサルティング株式会社（東京都）
- ・株式会社日本サルベージサービス（京都市）
- ・KANAYA株式会社（香港）

<参画・連携団体等>

- ・イギリスの国立美術芸術大学院大学「ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（RCA）」、シスコシステムズ（同）、京都デザイン&テクノロジー専門学校、その他

拠点イメージ

企業サイト

入居企業同士の交流
・共同研究
・共同開発 等



交流棟

異業種企業・大学の交流
・勉強会
・マッチングイベント



新たな協働を生み出す

新たな産業や暮らしがはじまる巨大な実験場

- ・入居企業を核の一つとして共同研究の部会を形成
- ・共同研究内容を目的に集まる企業や大学などを内外から呼び込み
- ・生まれた新たなシーズを発信
- ・府内広域へフィードバックし、産業化へつなげる

- 令和5年10月31日に「アート&テクノロジー・ヴィレッジ京都 (ATVK)」オープン
- 京都の企業や大学などをATVKに呼び込み、広く開放することで、国内外の多様な企業と交流し、共創する場を創出

4. アート&テクノロジー –ATVK施設概要–

15

アート&テクノロジー・ヴィレッジ京都
(ATV2023.10.31オープン)



実証スペース

- ・地域住民が参加する実証実験の実施
- ・地域住民や入居企業の憩いの場、ライブパフォーマンスや工作教室などのイベント開催



交流棟

課題・テーマのオープン化

【例】

- ・交流会、テーマ別研究部会、企業マッチング会およびピッチ会子ども向けアート体験教室・工作教室



企業サイト (10区画)

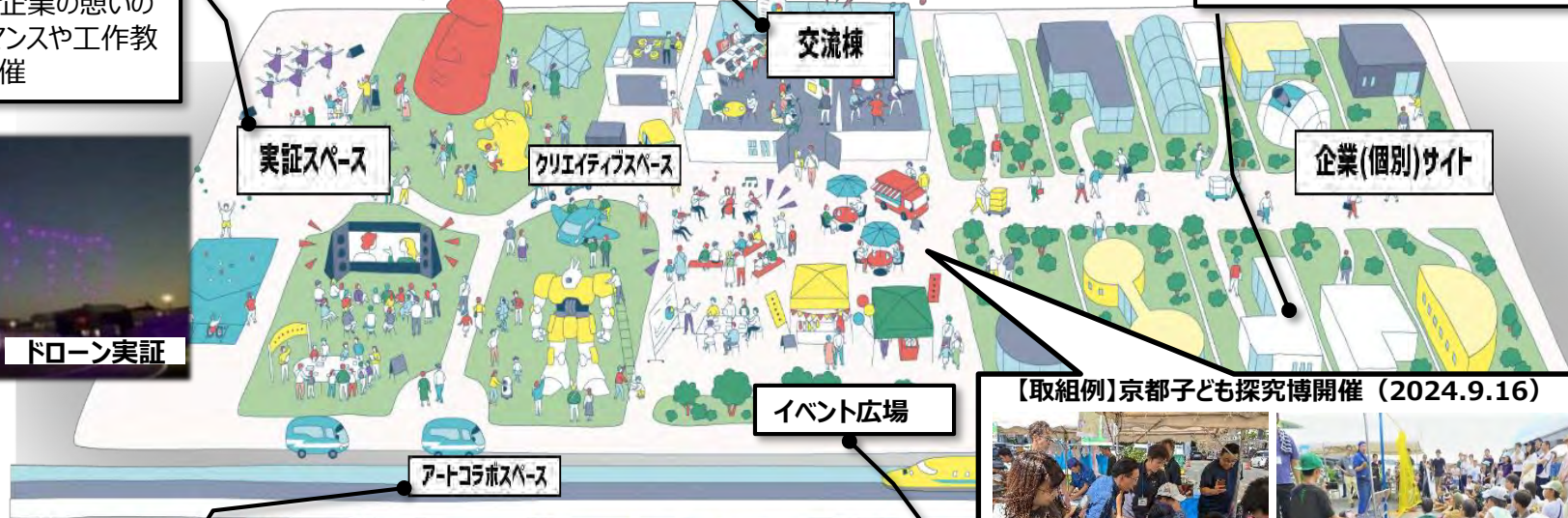
・従来の科学技術的なアプローチに加えてアーティストの感覚やアプローチがぶつかる研究

<入居企業 (10社)>

- ・マクセル(株)、(株)HESTA大倉、日本テレネット(株)、(株)シロク、アンカー・シップ・パートナーズ(株)、濱田プレス工藝(株)、ヘッドスプリング(株)、KPMGコンサルティング(株)、(株)日本サルベージサービス KANAYA(株)



ドローン実証



アートコラボスペース

- ・新幹線の橋脚下など、通常のギャラリーにはないシチュエーションでのアート作品の展示およびパフォーマンス



【取組例】京都子ども探究博開催 (2024.9.16)

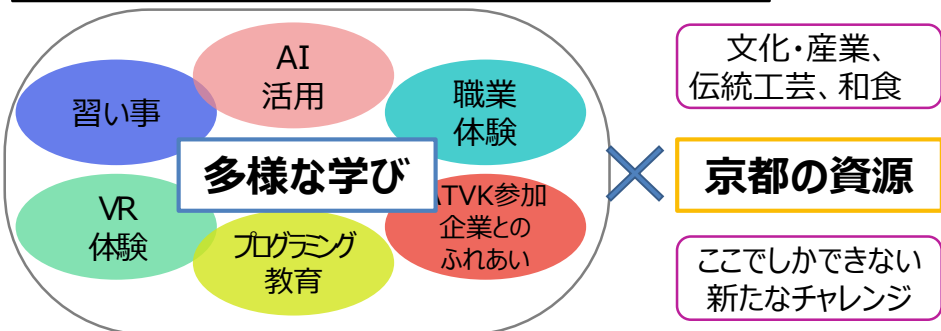


<参画・連携団体等>

- ・イギリスの国立美術芸術大学院大学「ロイヤル・カレッジ・オブ・アート (RCA)」、シスコシステムズ (同)、京都デザイン&テクノロジー専門学校、その他

<子どもの能力開発部会>

子どもたちが自らが伸びることができるしかけづくり



開催状況：準備会(令和5年10月24日)、第1回(令和5年11月1日)
第2回(令和6年1月16日)、第3回(令和6年7月2日)

<フェムテック部会>

女性の健康経営を広めるため、非医療分野の心や身体の状態の見える化に取り組む



島津製作所、村田製作所、BHQの技術を活用し、ストレスや脳の反応を簡易に計測するイベントを仁和寺で実施(2024.11月)

開催状況：準備会(令和5年9月28日)、第1回(令和5年11月1日)
第2回(令和6年1月17日)、第3回(令和6年6月21日)
第4回(令和7年2月20日)

<ロボティクス部会>

これまでにない新たな技術、解決手法、産業の創出を目指す



開催状況：第1回(令和6年1月16日)
第2回(令和6年8月5日)
第3回(令和6年11月25日)

<アート部会>

R7.2月25日
第1回部会
開催

4. アート&テクノロジー –イベント–

17

きみならどう使う？

京都子ども探究博

Kyoto Explorative Learning Expo

探究博

テーマ 探究心・創造力・想像力

2024 9/16 (月・祝) 11:00

※雨天時の対応やイベントもテクノロジーに特化しています。

京都のめづくり企業が大集合！子どもがワクワクするワーク・ニューモビリティ試乗会、ステージショーなど探究心を刺激する

① 京都子ども探究博オリジナルワークショップ
ものづくり体験と能力開発の2本立てのオリジナルワークショップ16種類の工程がヒラメキジムで楽しもう！

② ステージイベント
シャボン玉ショーや京阪太秦映画村のスペシャルステージなど盛りだくさん！京阪府のゆるキャラまゆまろも登場するよ！

③ 未来アントレプレナー賞
未来を創造したイラストを描こう！表彰式も開催します。

会場 京都市東山区 京都市立中央公民館 (ATVK事務局)
〒605-0821 atvk@k121.jp ドローンの操縦体験やフ

子どもの能力 開発部会の取 組



ヤッターワン製作体験WS



モビリティ試乗



未来アントレプレナー賞



電池教室(マクセル)



ヒラメキジム
(ブレインインパクト)



ものづくり体験ワーク
ショップ
(京都試作ネット)

京都子ども探究博 実施内容はこちら！

当日実施するワークショップは全て当日朝10時から先着順で整理券を配布いたします。※参加費は無料です。

ヤッターワン製作体験ワークショップ 人気アニメのキャラクター「ヤッターワン」が登場！京都の中小製造業団体「機軸連」によるモノづくり体験しよう！ 京都府商工中小企業青年連合会	ヒラメキジム powered by BHO 脳の可塑性技術を用いた、あなたの「ヒラメキ」を開花させるジムへようこそ！ けん玉、ロデオ、ダーツであなたの得意分野を見つけてみよう！ 一般社団法人ブレインインパクト
Happy Tech Happy World スマホのカメラで撮影したTOWA独自の拡張現実感あるワークシートを完成させよう！ TOWA株式会社	手作り乾電池教室 マクセルの乾電池を使った、乾電池の仕組みを学ぶワークショップと実験体験をします。 マクセル株式会社
スマートウォッチ体験教室 スマートウォッチをつけて自分の体の状態をリアルタイムで確認しよう！最新のスマートウォッチを体験しよう！ MITSUFUJI	ドローン教室 ドローンのプログラミングができるワークショップと実験体験をします。 ドローン株式会社
ものづくり体験Workshop! ものづくり体験を通して、創造力・想像力を伸ばそう！最新のデジタル技術を使ったワークショップを体験しよう！ 一般社団法人 京都府試作ネット	カラクリおもちゃをつくってみよう 機械の仕組みがわかるカラクリおもちゃを作ろう！ 株式会社Opell
お祭り音楽とお祭り体験ワークショップ 日本の伝統音楽の魅力を体験しよう！最新の音楽技術を使ったワークショップを体験しよう！ お祭り音楽の会	東映時代劇フェスティバル 東映時代劇の魅力を体験しよう！最新の映像技術を使ったワークショップを体験しよう！ 東映太秦映画村
シャボン玉ショー 子どもたちに大人気のシャボン玉ショーを体験しよう！最新のシャボン玉技術を使ったワークショップを体験しよう！ シャボン玉おじさん	まゆまろフリーティング 京都府のキャラクター「まゆまろ」を体験しよう！最新のフリーティング技術を使ったワークショップを体験しよう！ 京都府

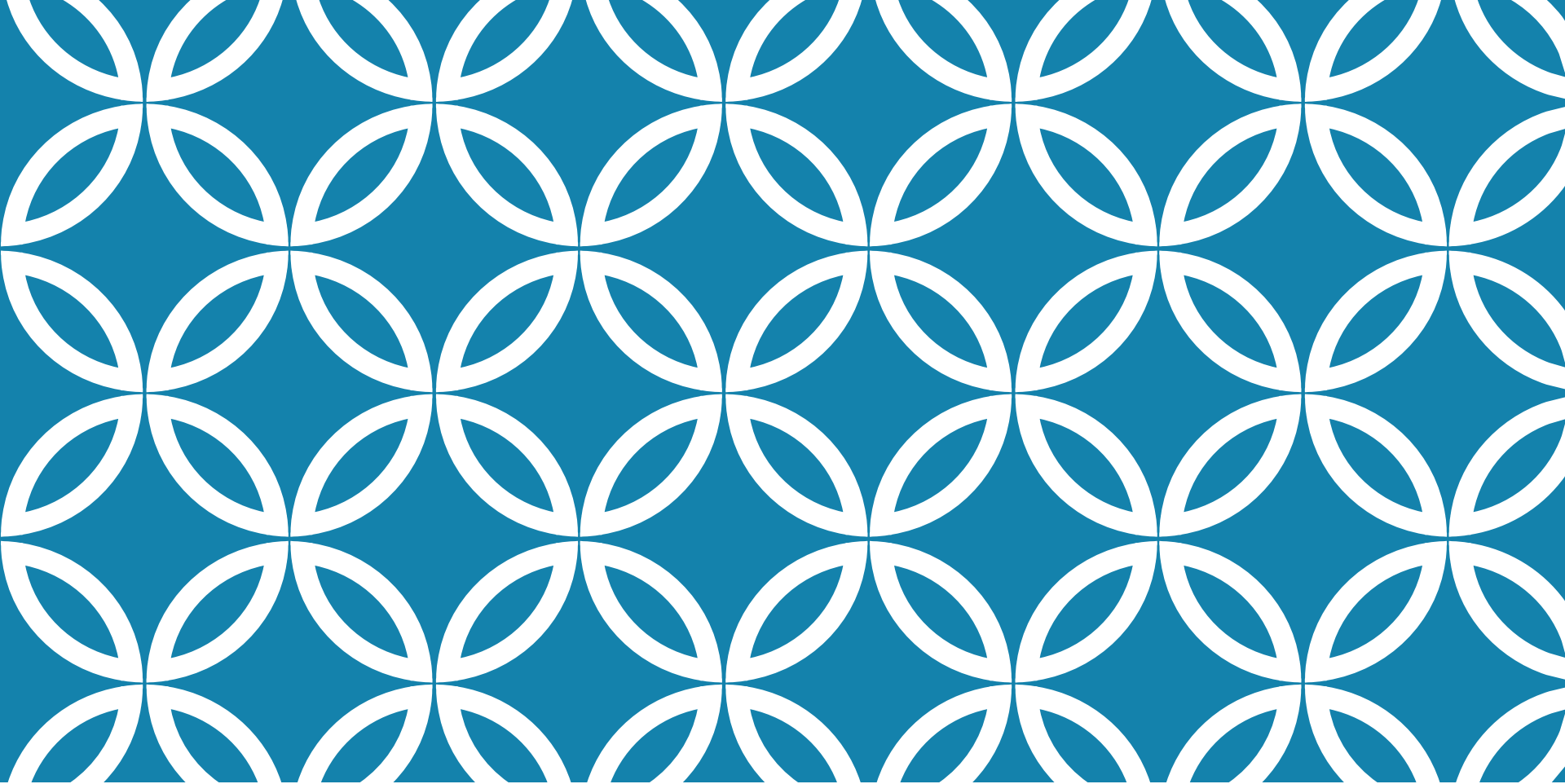
キッチンカーも多数出店！ぜひお楽しみください！

詳しくはアート&テクノロジー京都のHPをご覧ください。

※イベントは予告なく変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

<https://atvk.kyoto/>

約2,000名が
参加



新技術と社会づくり に関する特別委員会

「世界から注目されるテキスタイル産地の形成」
に向けた産業創造リーディングゾーンの取組

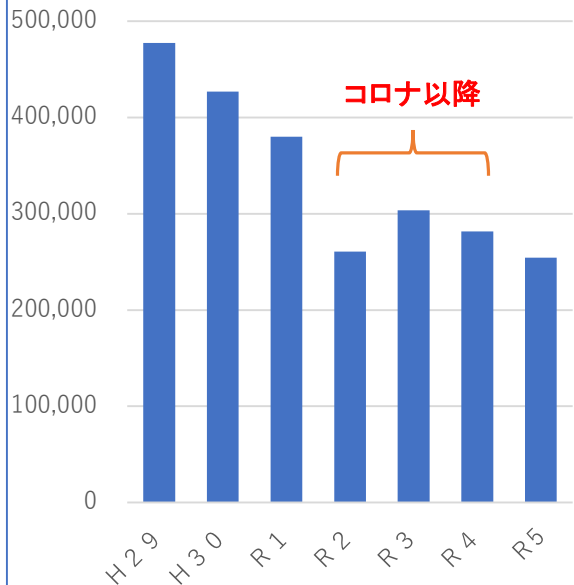
令和7年6月26日
京都府商工労働観光部
染織・工芸課 企画参事
里村 佳代

和装3産地の生産量について(コロナ禍以前との比較)

西陣織、京友禅・京小紋、丹後ちりめんとも、コロナ禍以前の生産量に比べて、5～6割程度の状況

西陣織 帯地

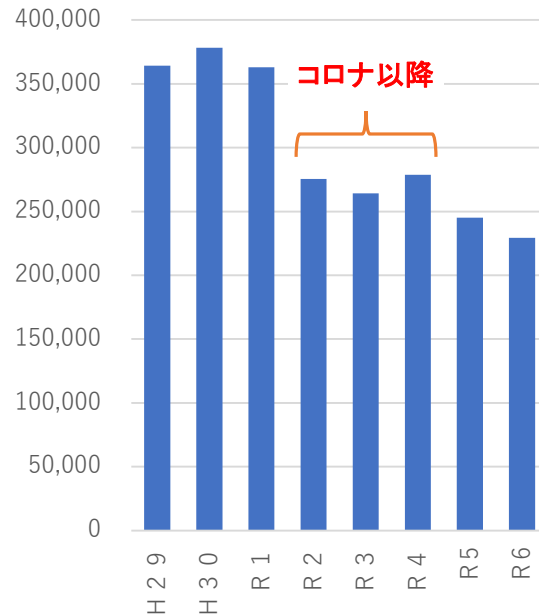
(単位：本)



**R5年：約25万本
(コロナ前比：66.9%)**

京友禅・京小紋

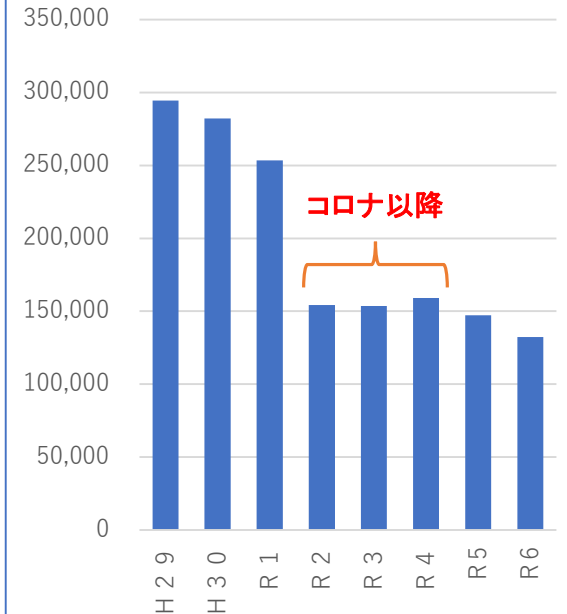
(単位：反)



**R6年：約23万反
(コロナ前比：63.1%)**

丹後ちりめん白生地

(単位：反)



**R6年：約13万反
(コロナ前比：52.2%)**

これまでの取組事例

◆シルクテキスタイル・グローバル推進コンソーシアム

【設立】令和3年4月

【構成】西陣織工業組合、京友禅協同組合連合会、丹後織物工業組合、京都府

【目的】3産地が連携することにより、和の文化力や技術を生かし、世界のニーズに応えられる魅力ある商品づくりを展開し、さらには直接バイヤーと商談できる力を養い、シルクテキスタイルの世界的な産地となることを目指す。

【取組】(1) ものづくり体制再構築

- ・機料品調達連絡協議会の設置
- ・後継者確保・育成対策事業の実施(R7～)

(2) 国内外販路開拓

- ・建材・インテリア市場参入事業
- ・ハイファッション市場参入事業



海外テキスタイル展示会（ミラノウニカ）出展



京友禅サリー展示

◆京都府総合計画

【8つのビジョンと基盤整備】

6 未来を拓く京都産業の実現

《重点分野》

○地域特性を踏まえた新たな産業創造のためのリーディングゾーンの構築

〈主要な方策〉

- ・世界最高レベルのシルクの染めと織りの技術を活用した世界から注目されるシルクテキスタイル産地の形成



◆「拠点整備」と「オープンイノベーション展開」を一体的に推進

【拠点整備】

- ・丹後織物工業組合加工場のリノベーションを支援

- ・3産地連携
- ・丹後で先行

【オープンイノベーション展開】

- ・シルクテキスタイル・グローバル推進コンソーシアムの取組強化
- ・国内外からクリエイター等を招聘し、商品開発・販路開拓を支援

産業創造リーディングゾーン(シルクテキスタイル産地)

【拠点整備】 丹後織物工業組合 加工場のリノベーション



○丹後織物工業組合

所在地：京丹後市大宮町河辺3188番地

設立年月日：昭和38年4月

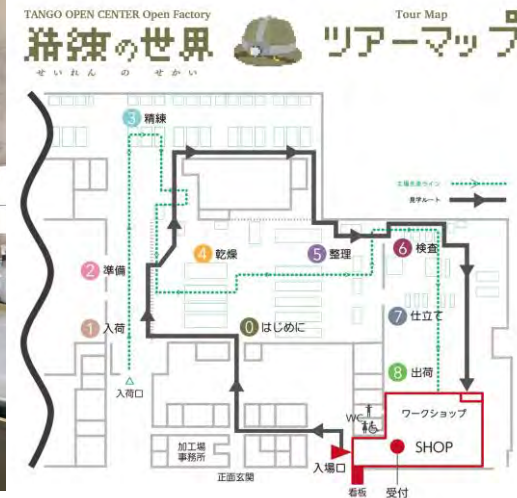
組合員：478件（令和7年3月末現在）

産業創造リーディングゾーン(シルクテキスタイル産地)

【拠点整備】 丹後織物工業組合 加工場のリノベーション

○オープンファクトリー整備

(R6.6.24オープン)



○ショールーム・ショップ等整備



産業創造リーディングゾーン(シルクテキスタイル産地)

【オープンノベーション展開】 CIR(Creator In Residence)事業

目指す姿

- ◆ 世界から注目されるシルクテキスタイル産地の形成(「京都府総合計画」)

事業概要

- 世界から注目され、将来的にはデザイナーやクリエイターが集い、新たな発想による商品開発が継続的に行われる産地を形成するため、海外のインテリアやファッションのクリエイター等が丹後に一定期間滞在し、丹後の織物事業者等と協同した商品開発を実施
- 開発された商品は海外の展示会等に出展するとともに、丹後の歴史、文化、自然や食など丹後産地の魅力を一体的に発信することにより、丹後ブランドの価値を向上

産業創造リーディングゾーン(シルクテキスタイル産地)

【オープンイノベーション展開】 CIR(Creator In Residence)事業

インテリアやファッション分野のデザイナー等



丹後地域

織物事業者

丹後織物工業組合

府織物・機械金属振興センター

地元市町

**現地に滞在し、テキスタイルやプロダクトの
協同開発や情報発信**



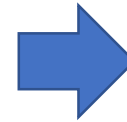
海外のテキスタイル展示会、ファッションやインテリア関連企業等

産業創造リーディングゾーン(シルクテキスタイル産地)

【オープンイノベーション展開】 CIR(Creator In Residence)事業

R5年度の 取組状況

R5年9～10月、ミラノのデザイナー及び工科大学研究員が丹後に滞在し、高品質な丹後織物の生地素材を選定、商品開発を推進



R6年4月、ミラノデザインウィーク期間中、ミラノインテリアブランド本社で丹後織物を展示



産業創造リーディングゾーン(シルクテキスタイル産地)

【オープンイノベーション展開】 CIR(Creator In Residence)事業

R6年度の 取組状況

イタリア・ミラノのインテリア企業（C&C Milano）との共同制作
およびミラノでの展示会出展に向けて現地を訪問

イギリスの老舗百貨店（Liberty）を招聘し、同社150周年記念品の制作にあたり、京都の事業者と連携するため各事業者を訪問



R7年度は、イタリアのインテリア企業の関係者を京都に招き、同社ショールーム等における展示・販売を視野に入れた共同商品開発を実施予定

ご清聴ありがとうございました

フードテック産業

ー 京都フードテック基本構想について ー

令和7年6月26日
農林水産部

構想策定の背景

世界規模

- 世界人口の増加
- 自然環境の変化
- 和食文化への評価の高まり

日本国内

- 国内の社会構造の変化
- 消費者志向の変化
- 京都府産品のブランド力低下

京都府の課題

生産

- 京都府の農林水産業にマッチしたスマート技術開発・実装
- 気候変動下における高品質・低コスト生産や健康機能性など新たなブランド価値の付加やSDG s を意識した品種や生産技術等の開発・普及

加工

- 健康機能性など新たなブランド価値の付加や環境負荷低減、フードロス削減などSDG s を意識した加工食品の開発・商品化

流通

- 輸出など広域流通のための保存技術等の開発・実用化

「京都ならではのフードテック」による 食関連産業のさらなる振興をめざして

目指すべき方向

京都の食文化や高い栽培技術と最先端技術を融合した京都ならではのフードテックの取組を通じて、農林水産業を含む食関連産業の課題を解決し、成長産業化を図る。

基本的視点

- ニーズファーストの徹底
- 最先端技術と食文化を融合する多様な主体によるオープンイノベーション
- 世界トップレベルの技術を有する大学や企業等との連携
- 持続可能性に配慮した事業の構築
- 京都のブランド力の世界への発信

計画期間

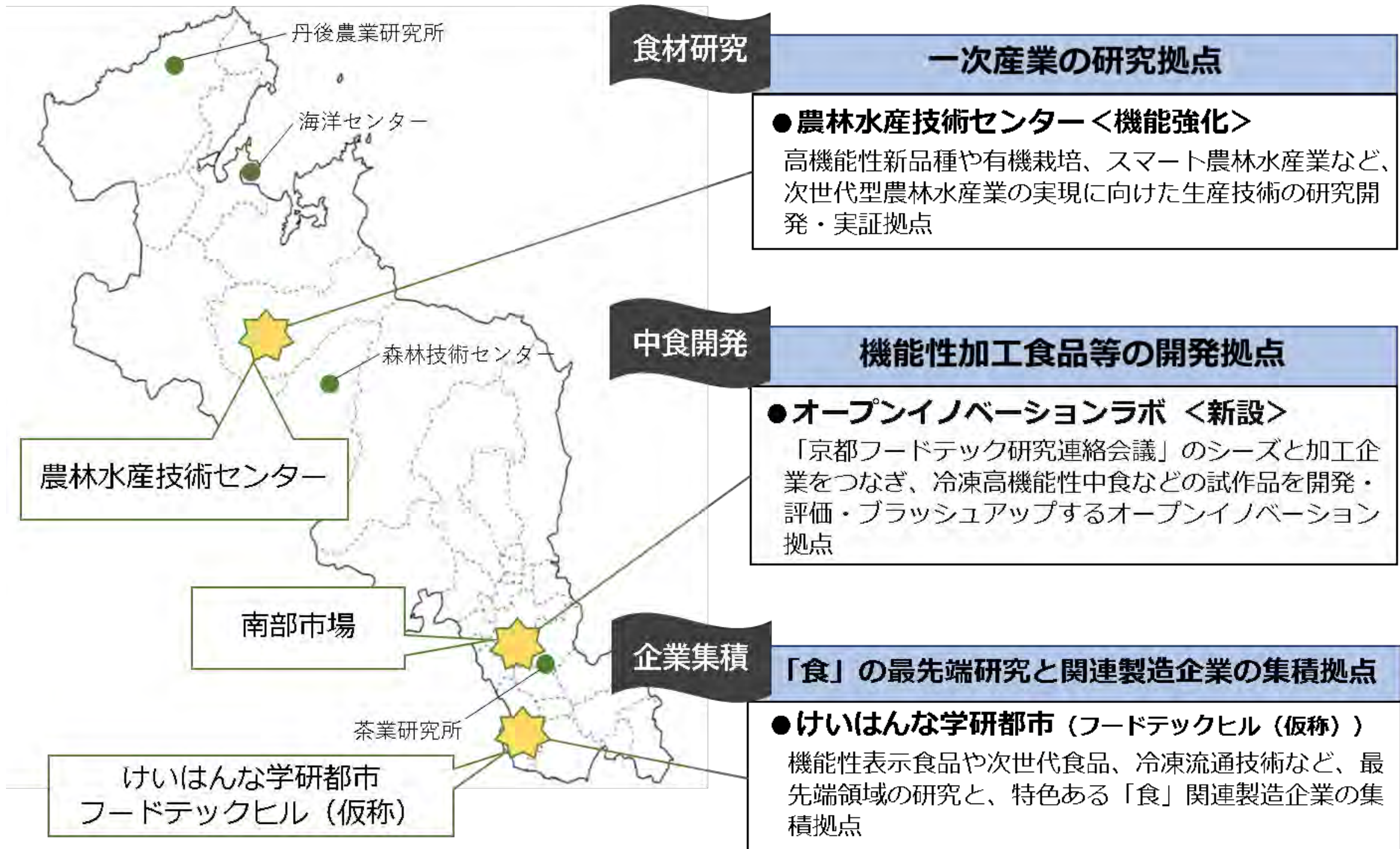
令和4年（計画策定年度）～令和10年度



3つの方策と主な施策

京都ならではのフードテックに関する研究開発

京都府農林水産技術センターを研究拠点として機能強化することや最先端企業等の集積エリアの整備などにより、京都の強みを融合した京都ならではのフードテックに関する研究開発を行います。



京都府農林水産技術センターの機能強化

農林漁業者や食品業者が抱える課題に対応できる研究機関になるために

ハード

◆一次産業の研究拠点の整備

- 分野横断研究や人材育成を行うため、畜産センターや農業大学校がある綾部へ研究拠点を集約
- 産学と連携のできる施設、次世代型農業に対応した研究ができる施設整備

◆機能性加工食品などの開発拠点の整備

- 南部市場に産学公民のオープンイノベーションによる「未来の中食」研究開発拠点として、「京都プレミアム中食オープンイノベーションラボ」を整備

ソフト

◆食を取り巻く情勢の急激な変化に対応する研究テーマの重点化

- ①京都の生産現場に対応したスマート技術開発
- ②気候変動への対応や需要創造に向けた品種や生産技術開発
- ③健康志向やエシカル志向などのニーズに対応した食品加工技術開発

◆リエゾン機能の強化

- 現場課題の適確な把握、異業種・異分野との連携深化、研究成果の迅速な実装

◆高度研究人材の育成

- 高度化・専門化が進む農林水産技術開発に対応する人材の育成

2

大学、研究機関、企業等とのネットワーク構築

府内に集積する研究機関や大学等が有する技術を集約するネットワークを構築し、フードテックに関する共同研究を促進します。

京都フードテック研究連絡会議

(R5.8月設立)

「京都ならではのフードテック」の
開発に関わる研究者
大学・企業・研究機関等
(157機関292名)

【研究開発の主要3テーマ】

- ①スマート農林水産技術
- ②高機能性品種、健康機能性食品
- ③気候変動、SDGS対応生産技術

★具体的な活動内容

- ・研究シーズの集積
- ・共同研究の組成
- ・全体交流会、テーマ別研修会開催 等

学研フードテック 共創プラットフォーム

(R5.10月設立)

けいはんなを中心に世界的なフードテックの課題解決に関わる研究者
(106機関200名)

農林漁業者

【課題】

- ・生産作業の効率化や自動化
- ・気候変動などの自然環境の変化への対応
- ・農林水産物の高品質化、高付加価値化

- ・生産現場での実証・実装

京都食ビジネスプラットフォーム

(R3.11月設立)

食に関連する多様な事業者

農林漁業者、食品加工製造業者、
小売業者、流通事業者、大学、研究機関 等
(611社)

【活動方針】

付加価値の高い商品開発や新たな販路の開拓

★具体的な活動内容

- ・商品化に向けたプロジェクトの組成
- ・アドバイザリーボードの設置
- ・研修会、ワークショップの開催
- ・専門部会の設置
- ①プレミアム中食 ②健康機能性
- ③保存・流通技術 ④輸出 ⑤フードテック

京都フードテック研究連絡会議

研究ネットワーク

■設立目的

- フードテックに関する技術の集約・発信・共同研究を促進するネットワークを構築
- 構成員・団体が研究シーズを持ち寄り、課題解決に向けて強みを生かした協力関係を構築
- 農林水産技術センターのリエゾン機能を強化

※会員数 157団体・292名（R7.5月）

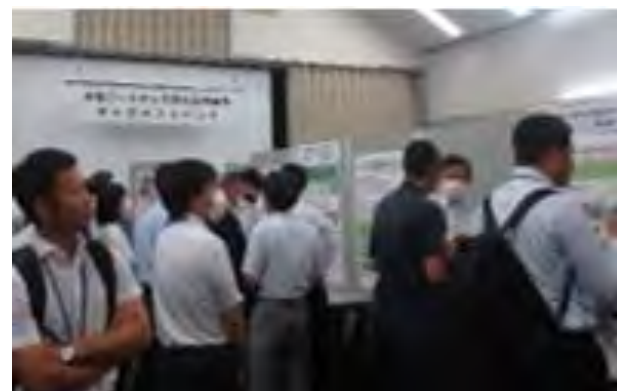


■活動内容

- 研究員の輪を広げ、共同研究創出につながるイベントの開催（テーマ別セミナー・交流会 等）
- webサイト運営、大学や研究部門を持つ企業等の訪問活動



キックオフイベント(共同研究実績報告、研究者交流会)R5.8.22



R6第1回セミナー&交流会(テーマ：循環型農林水産業)R6.8.29



「学研フードテック共創プラットフォーム」

学研フードテック 共創プラットフォーム

Mission

食に係る人類の課題をフードテックで解決する！

Vision

国内はもとより海外の大学や研究機関、民間企業や行政等が「産学官」の世界的なネットワークを形成し、連携・研究チームを組成してオープンで幅広い情報交換やコラボレーションを行うことにより、イノベーションを推進する。

10/5
設立

会員登録を随時受け付けております！

会員登録を希望される方は、以下の入会フォームよりお申し込みください。

設立趣旨

「食」×「先進テクノロジー」である「フードテック」により、世界的な食に係る課題解決への貢献をめざして設立する。

構成メンバー

国内外の大学や研究機関の研究者、民間事業者や金融機関、料理関係者や生産者、国や自治体関係等の職員等

事業内容

会員相互の情報交換や交流、それらを通じた共同研究や共同企画、各種助成等に係る情報共有、それらを活用した共同の取組の促進等

会費

無料

入会フォーム

下記URLまたは右記QRコードにアクセスし、お申し込みください。

https://www.kri.or.jp/contact/post_27.html



※ 会員数 106組織200名(R7.3月現在)

「学研フードテック共創プラットフォーム」コンセプト

共同企画

共同研究

フードテックヒル

共創

Foodtech for Well-being



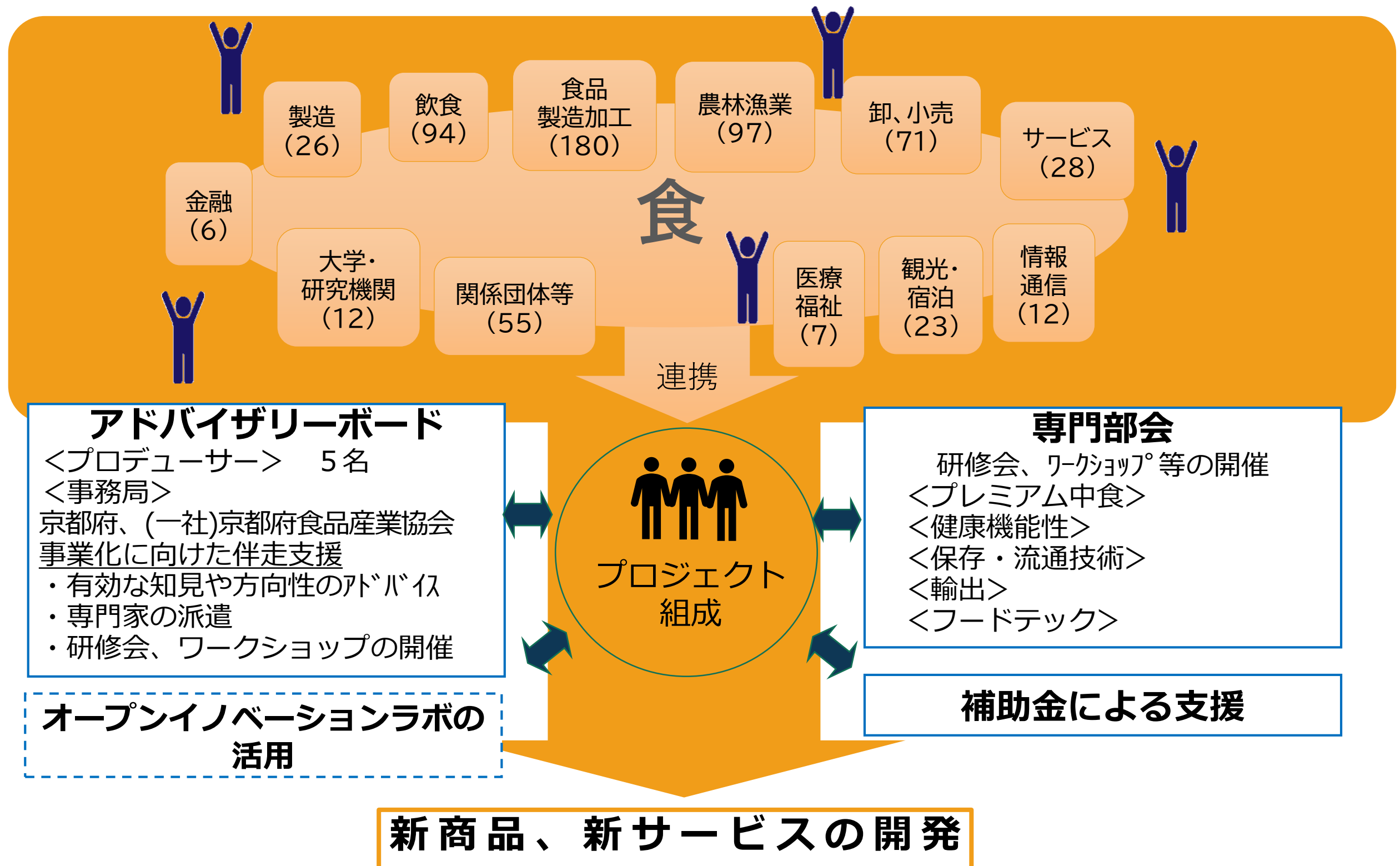
京 都 府

(公財)関西文化学術研究都市推進機構

3

新商品や新サービスを創出するオープンイノベーションの体制強化と支援

オープンイノベーションの促進により、京都ならではのフードテックを府内の食関連産業に還元する仕組みを構築し、新商品や新サービスの創出による京の食の高付加価値化と競争力の強化につなげます。（令和3年11月設置、会員数611事業者（R7.5月時点））



京都食ビジネスプラットフォーム 成果・取組事例

①美蓄食プロジェクト（進行中）

料理人と生産者が連携し、災害時の外部ストレス軽減を目指した防災備蓄も可能な京料理の開発



従来の備蓄食

- ・栄養素よりカロリー重視
- ・たんぱく質、食物繊維等栄養素不足
- ・災害第1ステージで食べられる食品が少ない



「心と体が安心する食事」
となっていない

新たな「美蓄食」

- ・魅力ある京都の食材、調理技術、保存技術を最大限活用し、
長期間保存可能な栄養バランスが取れたメニュー
- ・「美味しくて待てない」をコンセプトに非常時に留まらない美蓄食



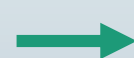
日常も非常時も
「心と体が喜び、安心する食事」
の提供

②京都産野菜使用ビーガン冷凍弁当プロジェクト

食品事業者と生産者等の連携により、京都産オーガニック食材を使用し、
作り立ての美味しさを急速凍結で閉じ込めた特別なお弁当の開発



欧米からのインバウンド客増加に伴い、フードダイバーシティ(食の多様性)への対応が急務



食品業界の人手不足により、個別事業者では対応困難

商品の特徴

- ・インバウンド客をターゲットにホテル・旅館等の宿泊施設で調理なしで提供可能
- ・オーガニック食材の使用、ビーガン対応のメニュー構成で、食の多様性に対応
- ・京都産の食材をふんだんに使用
- ・冷凍加工により長期保存を可能とすることで、日本全国へ流通が可能

令和9年予定

食関連産業のイノベーション拠点 『京都プレミアム中食オープンイノベーションラボ』を開設

- ◆京都府南部総合地方卸売市場（宇治市）に、京都食ビジネスプラットフォームで練り上げた商品化のアイデアを元に、試作品づくりや分析、評価等を行い、商品開発を進める拠点を整備
- ◆商品開発・分析・評価等の支援とともに、食品加工技術研究を実施

活用場面



客観的な食味
データの取得



未利用食材を活用
した新商品作製



健康機能性を維持
した保存食の開発



地域の特産物を利用
した土産品の開発



商品開発支援

企画から試作、分析・評価、販売戦略まで産学公民のオープンイノベーションによる一貫した開発支援

企画

- ・商品化の相談
- ・実現可能性の検討



試作

- ・加工機器の利用
- ・加工処理方法の検討



販売戦略

- ・販路開拓の検討
- ・試食会等の開催



分析・評価

- ・成分分析の受託
- ・おいしさの評価



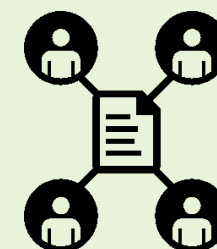
加工研究開発

健康志向や中食需要の増加などの消費者ニーズに対応する食品加工技術を研究・開発

- 【研究例】
- ・「京の食」の魅力の分析とデータベース化
 - ・京都の食文化を活かした中食加工技術
 - ・未利用資源の活用に向けた新たな食品加工技術



民間企業や大学、研究機関の研究者が連携するネットワーク「京都フードテック研究連絡会議」の活動により交流を深め、技術集積や共同研究を促進



京都フードテックエキスポ2025

「京都ならではのフードテック」の創出につながる出会いの場

京都フードテックエキスポとは

令和5年3月に策定した「**京都フードテック基本構想**」の実現に向け、**農林水産業を含む食関連産業の振興**を図ることを目的に開催する事業者・研究者の交流イベントです

日時

令和7年

10 / 2 木 ~ 3 金

10:00

17:00

会場

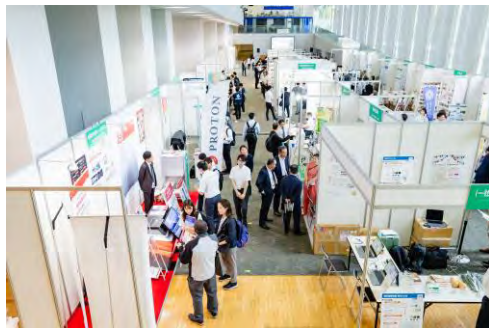
イノベーションセンター
(KICK)

内容

- (1) 企業、大学、研究機関等による技術・サービスの展示
- (2) アグリテック・フードテックに関する
国内外の企業トップや専門家によるセミナー、シンポジウム
- (3) 国内スタートアップ企業が競うピッチ会
- (4) アグリテック・フードテックに係る研究者の交流会
- (5) ビジネスマッチングのための事業者交流会

【昨年度の実績】

- ・10,000人の来場(京都スマートシティエキスポ2024併催)
- ・京都を代表する料理人、アグリテック及びフードテック業界の専門家によるセッション、セミナーを開催
- ・38団体の技術展示、10社によるピッチコンテスト



京都の食文化や高い栽培技術と最先端技術とを融合した「京都ならではのフードテック」の取組を促進します

(案)

令和7年 月 日

京都府議会議長 荒 卷 隆 三 殿

新技術と社会づくりに関する特別委員長 森 口 亨

閉会中の継続審査及び調査要求書

本委員会に付されている事件は、下記の理由により、引き続き審査及び調査を要するものと認めるから、京都府議会会議規則第75条の規定により申し出ます。

記

1 件 名

A I、I o Tなどの先端技術を活用した新産業の創造や京都産業の多様性を生かし、人材確保策をはじめ様々な分野の課題の解決を図るとともに、脱炭素社会の実現に向けた施策について

2 理 由

審査及び調査が終了しないため

開催事等に係る委員会調査一覧表(案)

商工労働観光部

開催事等名	主催者名 (招待者名)	会 場 (市区町村名)	日 時
けいはんな万博2025 スタートアップフェス	けいはんな万博2025運営協議会	けいはんなプラザ (相楽郡精華町)	令和7年7月25日(金) 午前9時30分～10時45分

行催事等に係る委員会調査の結果概要について

商工労働観光部

行催事等名	主催者名 (招待者名)	会 場 (市区町村名)	年 月 日
けいはんなアバターチャレンジ	けいはんな万博2025運営協議会	けいはんなプラザ 日時計広場 (相楽郡精華町)	令和 7 年 5 月 25 日 (日)
けいはんな万博2025 Well-Being Festival	けいはんな万博2025運営協議会	けいはんなプラザ (相楽郡精華町)	令和 7 年 6 月 13 日 (金)

令和7年5月22日

京都府議会議長 石 田 宗 久 殿

新技術と社会づくりに関する特別委員長 中 島 武 文

新技術と社会づくりに関する特別委員会中間報告書

京都府議会議事規則第46条第2項の規定により、令和6年5月府議会臨時会閉会後から現在に至るまで、本委員会が調査及び研究してきた状況について、別紙のとおり中間報告いたします。

(別紙)

新技術と社会づくりに関する特別委員会中間報告書

1 本委員会の設置目的

AI、IoTなどの先端技術を活用した新産業の創造や京都産業の多様性を生かし、人材確保策をはじめ様々な分野の課題の解決を図るとともに、脱炭素社会の実現に向けた施策について調査し、及び研究する。

2 本委員会の活動状況

(1) 委員会の開催について

- 令和6年6月7日、第5委員会室において、関係理事者から所管事項に係る事務事業概要について説明を聴取した。また、今期の委員会運営方針について協議を行った。
- 令和6年6月26日、第5委員会室において、「本委員会の調査事項に関連する施策等について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取し、これに対する質疑を行うとともに、今後の調査・研究テーマについて委員間討議を行った。
- 令和6年10月1日、第5委員会室において、株式会社エネコートテクノロジーズ 代表取締役社長 加藤 尚哉 氏を参考人として招致し、「脱炭素社会の実現に向けた新技術の活用について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、ペロブスカイト太陽電池を活用した脱炭素社会の実現に向けた取組について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和6年12月17日、第5委員会室において、日東製網株式会社 技術部総合網研究課 課長 細川 貴志 氏及び伊根浦漁業株式会社 代表取締役 倉 幹夫 氏を参考人として招致し、「スマート水産業の推進について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、ユビキタス魚探などAIを活用した技術や京都府内での活用状況について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和7年3月17日、第5委員会室において、ミツフジ株式会社 代表取締役社長 三寺 歩 氏を参考人として招致し、「伝統産業を活用した新産業の創出について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、西陣織技術を活用したウェアラブルIoTソリューション事業について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和7年5月22日、第5委員会室において、中間報告に係る協議を行った。

最後に、今期1年間の委員会活動に係る所感、要望等の意見開陳を行った。

(2) 管内外調査の実施について

以下の取組について調査を行った。

○調査日：令和6年8月22日

調査先：株式会社浜田 京都PVリサイクルセンター

〔於：八幡市文化センター〕（八幡市）

調査事項：太陽光パネルのリサイクル・リユースについて

株式会社浜田は、2015年から太陽光パネル事業を開始し、2020年に、使用済み太陽光パネルの適切な分別・適正処理のための工場として「京都PVリサイクルセンター」を八幡市に開設した。

同センターでは、使用済みの太陽光パネルについて、まずジャンクションボックスとアルミフレームを外し、ホットナイフ技術で板ガラスとセル/EVAシートを分離することにより、パネルの製造コストの大きな割合を占める板ガラスを割らずに回収でき、ガラス原料として再利用している。また、割れのある太陽光パネルについては、PVリサイクルハンマーで、割れガラスとセル/EVAシートに分離し不純物を取り除いた上で、ガラスを主とする二次製品等に再資源化している。

また、同社はリユース事業にも取り組んでおり、年式が10年以内のものなど、いくつかの条件をクリアした使用可能な中古の太陽光パネルを買い取り、国内外へ販売している。リユースすることで、太陽光パネルの価格を下げることによる導入コスト削減や、太陽光パネルの製造における環境負荷の低減などが期待される。

同社では2022年に太陽光リユース・リサイクル協会を設立した。今後、大量廃棄が予想される太陽光パネルの適切なリユース・リサイクルを促進するため、多様な機関と連携、協働して法整備や新たな技術の研究開発などの取組を進めていくとのことであった。

○調査日：令和6年8月22日

調査先：広島大学デジタルものづくり教育研究センター（広島県東広島市）

調査事項：社会実装に向けた研究開発活動と高度産業人材を育成する新たな拠点について

広島大学デジタルものづくり教育研究センターは、デジタルイノベーションを担う人づくりと産学の創発的研究開発を推進する新たな拠点として、2019年に設立された。同センターでは、教育、研究、社会貢献の3つのミッションを掲げ、先進技術の社会実装に向けた取組を行っている。

同センターでは、単独企業では解決困難な課題に対し、異分野の専門家が交流し

て研究などを行うアンダーワンループ体制を採用しており、各課題に対する共創コンソーシアムを設置し、延べ74社・機関、1,144名が参画している。現在は、広島県の中核産業である自動車に関するコンソーシアム3つに加え、令和5年度からカーボンニュートラルに関するコンソーシアム2つを設置している。

また、従来においては、企業内でデジタル人材の育成を行っていたことから、会社独自の技術のみを学ぶ閉鎖的な状況であったため、同センターでは、様々な企業が集結し、多様な技術に触れることができる多様な人材育成に力を入れている。それぞれの研究分野において、地元企業や学生が共同研究を行うことで、企業独自の技術や大学が持つ知見の交換・共有が可能となるほか、それをきっかけに技術者が大学へ入学、学生が地元企業へ就職するなど、人材・知見の好循環を生み出す仕組みを作っている。

今後は、県内企業に限定していた共創コンソーシアムに県外企業も参入できる働きかけをはじめ、人材育成の仕組みの拡大を行うなど、デジタル人材の創出や先進技術の社会実装に向けた体制をより強化していくとのことであった。

○調 査 日：令和6年8月23日

調 査 先：広島県議会（広島県広島市）

調査事項：土木とDXを組み合わせたD o b o Xの取組について

広島県では、建設分野におけるデジタル化やデータの利活用などに課題があったことから、2021年に建設分野におけるDXの取組を取りまとめた広島デジフラ構想を策定し、その取組の1つとして「D o b o X」の運用を2022年6月から開始した。

D o b o Xは、公共土木施設等に関するあらゆる情報を一元化・オープンデータ化し、外部システムとのデータ連携を可能とするシステム基盤である。災害リスク情報や土木施設情報など約100種類のデータが搭載されており、これまで個別に管理されていた情報を集約することで、利便性が向上するとともに、各地域の防災アプリや観光アプリに活用されるなど、新たなサービスの提供等が実現できるようになった。

平成30年7月豪雨を受けて、防災分野におけるD o b o Xの活用を進めており、道路や砂防など、各部署が所有するデータを重ね合わせることで、きめ細かなリスク情報を提供し、より安全な避難経路の確保などにつなげている。また、地域の防災リーダーにもD o b o Xを活用してもらうことにより、地域の防災力の強化につなげている。

D o b o Xの運用開始以降、広島市をはじめとする各市町や、国土交通省、周辺の県とも連携してデータの拡充を進めており、D o b o Xのダウンロード数も月14万回を達成するなど、需要も非常に高くなっている。今後は、県民へのさらなる普及や、デジタルデバイドの解消などに努めていくとのことであった。

○調 査 日：令和6年8月23日

調 査 先：積水化学工業株式会社（大阪府三島郡島本町）

調査事項：フィルム型ペロブスカイト太陽電池について

積水化学工業株式会社は、次代の中核事業（ネクストフロンティア）開発のため、新規事業の創出に取り組んでいる。主に環境・エネルギー面などの社会課題解決に資するイノベーションの創出に注力しており、2013年ごろから、液晶に関する開発・製造技術を活用し、フィルム型ペロブスカイト太陽電池に関する技術研究を開始した。

フィルム型ペロブスカイト太陽電池は、軽量で柔軟な次世代の太陽電池で、発電層であるペロブスカイトが非常に薄く、同社独自の封止技術により、1㎡当たり約1kgという、従来のシリコン系太陽電池の約15分の1の重さを実現した。また、曲げることができる柔軟性も有しており、シリコン系太陽電池では設置不可能だったビルの壁や体育館などの軽量屋根にも設置可能であることから、カーボンニュートラルをより推進していくための重要な技術となっている。

同社は2025年の事業化を目指し、様々な施設に設置し実証を進めているが、発電効率の高い製品を安価で大量生産する方法の構築や、製品が軽く柔軟性があることから、従来のように固定することができないため、安定した設置ができないこと、法律により戸建て住宅にはフィルム型ペロブスカイト太陽電池が設置できないなどの課題が残っている。今後は、関係機関と連携しながら、残された課題の解決に向けて取組を進めていくとのことであった。

3 本委員会の所管に係る主な動き

- 令和6年6月、丹後織物工業組合により、丹後ちりめんの精練・検査・出荷などの工程を見学できるオープンファクトリーや丹後織物の製品をはじめとするプロダクト、地域産品などを販売する直営ショップなどを整備した「TANGO OPEN CENTER」が開設された。
- 令和6年7月、IVS KYOTO実行委員会は、国内外の起業家・投資家などが一堂に会し、直接交渉による投資・協業先・人材などの獲得や、各分野の最新動向の把握と多様な人材の交流を契機とした新ビジネス創出を促進する、国際スタートアップ・カンファレンスである「IVS 2024 KYOTO」を開催した。
- 令和6年10月、京都スマートシティエキスポ運営協議会は、けいはんなオープンイノベーションセンターにおいて、スマートシティをテーマにした日本最大級の講演・展示・交流イベント「京都スマートシティエキスポ2024」及び京都の食文化や食材と食の最先端技術との融合を目指す「京都フードテックエキスポ2024」を同時開催した。
- 令和6年12月、京都府は、けいはんな学研都市エリアを中心に、運転手不足など

の様々な地域交通の課題に広域的に取り組むため、交通事業者や市町における次世代モビリティの導入の一環として、京田辺市において自動運転EVバスの実証運行を行った。

- 令和7年2月、ZET-summit実行委員会は、国内外の脱炭素テクノロジー関係者（スタートアップ、大企業、研究者など）が一堂に会し、新たな交流と共創を目的とする国際カンファレンスとして「ZET-summit2025」を開催した。
- 令和7年2月から3月にかけて、一般社団法人京都スマートシティ推進協議会は、自動運転や配送ロボットなどの新たなモビリティによるサービスの社会実装を加速させるべく、精華町において自動運転車両や小型配送ロボットの協調運行に関する実証を行った。
- 令和7年4月、けいはんな万博2025運営協議会は、高い研究開発力と豊かな歴史文化資源に恵まれたけいはんな学研都市エリアで、「ロボット・アバター・ICT」「ウェルビーイング」「スタートアップ」「サイエンス&アート」のフェスティバルを中心にけいはんな学研都市のもつ、高い研究開発力と豊かな歴史文化資源を最大限に発揮した様々なコンテンツを展開し、未来社会に向けたポテンシャルを世界に向けて発信する「けいはんな万博2025」を開幕した。

4 残された主な課題

本委員会の設置目的に掲げられた諸課題について、調査及び研究を進めた結果、なお引き続き調査及び研究を要する次のような課題が残されていると考える。

- 府民に向けた脱炭素社会実現に向けた取組の周知
- 多様な京都産業の連携・融合による持続可能な産業社会の創造
- 新技術を活用した生産性の向上や人材不足への対応

新技術と社会づくりに関する特別委員会 活動状況 <付録>

(令和6年5月～令和7年5月)

年 月 日	区 分	主 な 内 容
6. 5. 24	委 員 会	1 委員長の選任 2 副委員長の選任 3 副委員長の順位
6. 7	正副委員長会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 本日の委員会運営
6. 7	委 員 会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 所管事項に係る事務事業概要 4 今期の委員会運営方針 5 今後の委員会運営
6. 14	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
6. 26	委 員 会	1 所管事項の調査 「本委員会の調査事項に関連する施策等について」 2 委員間討議 「今後の調査・研究テーマについて」 3 閉会中の継続審査及び調査 4 今後の委員会運営
8. 22 ～23	管 内 外 調 査	▷ 株式会社浜田京都 PV リサイクルセンター〔於：八幡市文化センター〕 ▷ 広島大学デジタルものづくり教育研究センター ▷ 広島県議会 ▷ 積水化学工業株式会社
9. 19	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
10. 1	委 員 会	1 所管事項の調査 「脱炭素社会の実現に向けた新技術の活用について」 参考人：株式会社エネコートテクノロジーズ 代表取締役社長 加藤 尚哉 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
10. 3	管 内 調 査	▷ 京都スマートシティエキスポ2024 オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
12. 6	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
12. 17	委 員 会	1 所管事項の調査 「スマート水産業の推進について」 参考人：日東製網株式会社 技術部総合網研究課 課長 細川 貴志 氏 伊根浦漁業株式会社 代表取締役 倉 幹夫 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営

年 月 日	区 分	主 な 内 容
7. 2. 1	管 内 調 査	▷ 京都環境フェスティバル2025 オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
2. 4	管 内 調 査	▷ ZET-summit2025 オープニング (行催事等委員会調査)
3. 13	正副委員長会	1 確認事項 2 定例会中の委員会運営 3 今後の委員会運営
3. 17	委 員 会	1 確認事項 2 所管事項の調査 「伝統産業を活用した新産業の創出について」 参考人：ミツフジ株式会社 代表取締役社長 三寺 歩 氏 3 閉会中の継続審査及び調査 4 今後の委員会運営
4. 13	管 内 調 査	▷ けいはんな万博2025 開会式 (行催事等委員会調査)
5. 22	正副委員長会	1 臨時会中の委員会運営
5. 22	委 員 会	1 中間報告 2 委員会活動のまとめ ※発言内容は別紙のとおり

委 員 会
正副委員長会

7回
6回

管内外調査
管 内 調 査

1回（2日）
4回

令和7年5月臨時会 委員会活動のまとめ

○田中志歩委員

よろしくお願いします。中島委員長をはじめ小巻・田中健志両副委員長、並びに各委員の皆様、関係理事者、事務局の皆様には、本委員会の運営に多大なる御尽力を賜りまして誠にありがとうございました。

本委員会では、京都の未来を切り開くIT産業や脱炭素社会の実現に向けた取組、また多様な人材や技術の活用による産業の持続的成長など、重要なテーマについて調査・研究をさせていただきました。皆様の御尽力により、多様な分野にわたり参考人の招致をしていただきまして、時代の最先端で研鑽を重ねられている地域の力強さを学ばせていただきました。

積水化学工業株式会社におけるフィルム型ペロブスカイト太陽電池の開発については、軽量・柔軟で、これまで設置が困難だった場所にも対応可能な次世代の太陽電池として学ばせていただきました。まさにカーボンニュートラル社会の鍵を握る技術であり、府内企業や自治体が連携していくことでその社会実装がさらに加速する可能性を感じております。

また、けいはんな万博2025の開幕をはじめ、スマートシティやモビリティ分野の実証実験、そして京都の科学技術と伝統文化を合わせた取組も広く国内外へ発信していただきました。こちらも、改めて大きな期待を寄せております。これらは地域の課題解決と経済の活性化を同時に図る非常に重要な取組と承知をしております。今後も強く後押しをしてまいりたいと考えております。

一方で、脱炭素の府民への浸透、地域企業や人材との連携によるイノベーションの創出、新技術導入に伴う人材育成といった課題もなお残されております。今後もこうした課題にしっかり向き合いながら、京都の未来産業の在り方を共に描いていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

1年間お世話になり、ありがとうございました。

○池田輝彦委員

よろしくお願いします。この1年間、中島委員長、小巻・田中健志両副委員長をはじめ委員の皆様、理事者並びに事務局の皆様、大変お世話になり誠にありがとうございました。

本委員会に所属していたこの1年では、日本や京都府の様々な課題と現状について、またその解決に向けての新しい技術の開発状況など、これまで見えていなかった現実や新たな未来に向けての展望について学ぶことができ、大変勉強になりました。

ペロブスカイト太陽電池につきましては、開発している企業に訪問させていただき開発の様子や今後の展開や課題についてお聞きすることができました。ペロブスカイト太陽電池は、脱炭素社会の実現を大きく前進させるもので、多くの期待が寄せられるところです。現在、開催中の大阪・関西万博のバス停の屋根には、国内最大のフィルム型ペ

ロボスカイト太陽電池が設置されており、今後の展開が期待されます。

スマート水産業の推進につきましては、定置網のスマート化についての取組をお聞きすることができました。定置網からのカメラ映像により海中の様子を遠隔で見ることができるスマート化により、生産性の向上やコスト削減、さらには資源管理にも貢献できるとして、働き手不足などが深刻な職種にあってこの取組も今後が期待できます。

本委員会の管外調査でも、多くのことを学ばせていただきました。広島県では、土木とDXを組み合わせた取組により、危険リスクについての情報などをオープンデータ化することで、県民や民間企業、研究機関などがデータを共有できるとのことで、県民の安心・安全への取組が進んでいました。特に水害についての被害の軽減について期待できるところが印象的でした。京都府におきましても、今後の取組の参考となることと思います。

近年では、AIを活用した新たな取組などが注目されております。AIは素晴らしい技術ですが、それを使う人間の正しい倫理や思想がなければ間違った使い方による弊害もあると考えます。新たな技術をさらに学び、今後の京都府や府政の発展に役立てるよう取り組んでまいりたいと決意を申し上げまして、私のまとめといたします。

1年間、大変お世話になりました。

○家元優委員

この1年間、中島委員長、小巻・田中健志両副委員長はじめ各委員の皆様、また関係理事者の皆様、そして事務局の皆さんには大変お世話になりました。

6月の初回委員会で、先端技術を活用した新産業、京都産業の多様性を生かした人材確保等、様々な分野の解決を目指して取り組んでいくということを確認いたしまして、参考人を招いての所管事項調査では、脱炭素社会の実現に向けた新技術の活用、またスマート水産業の状況、伝統産業を活用した新産業の創造等について現状を確認しながら知見を広げることができました。

また、8月の管内外調査については、1泊2日で京都府内、広島県、大阪府を回るという大変ハードなスケジュールでありましたが、それぞれ認識を新たにすることができました。

八幡市の株式会社浜田京都PVリサイクルセンターにおいては、同社の事業の一つであります太陽光パネルのリユースとリサイクルについて説明を受け、現地を見せてもらいました。リユースの際の性能強化やリサイクルできる範囲の拡大にこれから期待したいというふうに思っております。

広島大学のデジタルものづくり教育研究センターでは、社会実装に向けた研究開発活動、高度産業人材育成の拠点でそれぞれ活動されておるわけですが、そこで有意義な意見交換もさせてもらいました。翌日の広島県議会では、広島県の土木とDXを組み合わせた「D o b o X」につきましても調査を行って意見交換を行いました。公共土木施設等のあらゆる情報を一元化・オープンデータ化して、外部システムとのデータ連携を可能にするということで、この取組に至った経過や背景、今後の展開等について説明を受けました。我々の大きな課題であります防災・減災対策にも大きな効果が期待できるということを感じたところであります。

また、大阪に帰りまして、島本町の積水化学工業も訪問させていただきました。フィルム型ペロブスカイト太陽電池については、これまでの開発実績、目標、課題等について説明を受けましたし、実証実験中の様子を見せてもらいました。太陽光パネルが屋根や屋上だけでなく壁面等の幅広い箇所に設置可能ということで、これもまた環境問題も含めまして大きな可能性を感じたところでもあります。

こういった、これまで1年間、調査・研究をしてきました内容について、脱炭素社会実現に向けた府民への取組の周知でありますとか、新技術を活用した生産性の向上、また人材不足への対応、それぞれ調査・研究を行ってきた中で様々な分野の明らかになった諸課題について、今後どのように引き継いで整理していくのかということも大きな課題であるというふうに考えてきたところです。

いずれにしても、内容の濃い、充実した調査研究をさせていただきました。1年間お世話になりました、ありがとうございました。

○馬場紘平委員

正副委員長、並びに委員の皆さん、また理事者の皆さん、大変お世話になりました。同時に、担当の議会事務局の皆さんにも1年間お世話になり、ありがとうございました。

本委員会は新技術と社会づくりというテーマで1年間、様々な現場の皆さんの話もお聞きをし、管内外調査では様々な現場を見せていただくことができました。そんな中で、新しい技術が日進月歩で生まれてきて、さらに進んでいっているということを感じることができました。

ただ、一方で、それを地域の経済や社会にどう結びつけていくのかというのは、非常に難しいなということを感じたのも正直なところでもあります。その点では、スマート水産業の取組として伊根浦漁業株式会社の倉代表取締役、伝統産業を活用した新産業への挑戦としてミツフジ株式会社の三寺社長から参考人としてお聞きしたお話というのは、非常に学ばされるものがあつたなというふうに感じています。

お二人が話されたのは、当然新しい分野、新しい技術、こうしたものを導入していくために支援は欠かせない。ただ、一方で、例えば定置網であれば網の更新が非常に大きな負担になっているということ、帯製造のときから取引をしていた多くの事業者の皆さんがあつて初めて新しい分野に挑戦できたという経験なんかを話されました。ともすると、これまでやってきたものが駄目だから新しい分野に挑戦するであるとか、新しい技術を導入して効率化を進めていけば全てがうまくいくというふうに考えがちだけれども、そうではなくて、これまで京都経済が培ってきた裾野の広い産業をどう下支えして活性化していくのかということが、逆に言うと新分野への挑戦や新技術の導入に取り組む上でも大前提になるということをお二人の話は示唆されていたなというふうに思っています。

そういった意味ではぜひ理事者の皆さんには、当然そういった観点を持って仕事をいただいていると思うんですけども、改めてこうした観点をしっかりと府政の土台に置いて施策を進めていただきたいというふうに思っています。

特に今、原材料や資材などが非常に高くなっています。こういったものが地域経済を直撃していて、地域でお話を聞いていても、人手不足、賃上げといった課題も含めて、たくさんの事業者の方から事業継続に対する困難のお話をよくお聞きします。まずは全

体の下支え、事業継続ができるような支援をしっかりと全力を挙げて取り組んでいただきたい、このことは理事者の皆さんに加えてお願いしておきたいというふうに思います。

最後に、委員会の運営についても触れておきたいというふうに思います。毎会議ごとに参考人をお呼びして意見交換を行ってきたわけですが、理事者の皆さんとの間での議論というのは不十分だったなというふうに私は感じていまして、学んできたものを府政にどう生かしていくのか、また府政の課題がどこにあるのかということは、やはり理事者の皆さんとの十分な議論がどうしても欠かせないというふうに思っています。

その点では、次の委員会の運営の際にはこうした理事者の皆さんとの十分な議論ができるような場もしっかりと持っていただきたい、この点については申し送りという観点でこの場で触れておきたいというふうに思います。以上です。

改めて、1年間、本当にありがとうございました。

○兎本和久委員

中島委員長、小巻副委員長、田中健志副委員長をはじめ委員の皆さん方におかれましては、委員会審査や管内外調査、参考人聴取におけるテーマの選択も苦労があったのではないかなと推測いたします。円滑な運営に格段の御協力をいただきましたことを心から感謝申し上げます。また、事務局の方も同一でございますので、感謝申し上げます。本当に1年間ありがとうございました。

理事者の方に申し上げますと、皆様方におかれましては、本委員会において出されました御意見・御要望につきましては、今後の府政運営に生かしていただきたいとお願い申し上げます。

最後に、委員並びに理事者の皆様方におかれましては、健康に留意され今後ますます御活躍されますことを御祈念申し上げまして、私のまとめとさせていただきます。1年間、誠にありがとうございました。

○畑本久仁枝委員

1年間、ありがとうございます。中島委員長、小巻副委員長、田中健志副委員長、そして委員の皆様、御苦労さまでした。また理事者の皆様、真摯にお答えいただきありがとうございます。事務局の皆様、ありがとうございます。お世話になりました。

私は、この委員会の前段の委員会に入らせていただいております。2022年、ちょっと名称を正確に覚えていないんですが、その後で新技術と社会づくりに関する特別委員会ということで、また再び近藤委員と御一緒に学ばせていただく機会を得ました。この委員会は、AI、IoTなどの先端技術を活用した新産業の創造や京都産業の多様性を生かし人材確保をはじめ様々な分野での課題解決を図り、脱炭素社会の実現に向けた施策の調査と研究をすることが目的とされており、令和6年度に実施された参考人の聴取はいずれも興味深い、関心の高い貴重な内容で、学びの多い1年だったと私は思っております。

この1年を振り返りますと、9月定例会では、先ほども出ておりますペロブスカイト太陽電池を活用した脱炭素社会実現の取組を推奨されている加藤尚哉参考人によるお話を聞くことができました。管外調査でも積水化学工業に行かせていただき、そのお話と実際フィルムを見せていただいて、私も大変参考になり、先ほども出ましたけれども、

これが今、万博では既にバス停の上に張られているということで、より一層多くの事業化をしてペロブスカイト太陽電池が普及することを願っております。

また、12月定例会では、先ほども出ておりますけれども、日東製網の細川様と伊根浦漁業の倉様の参考人招致で、スマート水産業の推進について学ばせていただきました。これはユビキタス魚探の技術を既に京都府内で活用されているということで、無駄のない操業ができるということで大いに期待をしたい。また、この漁業に関しては人材不足、今の漁師の方々が高齢化しているということも踏まえて、このような有効的な活用がこれから進んでいくことを願っております。

2月定例会では、西陣織の技術を健康医療機器に活用するという大変大きなイノベーションを起こした事業のお話を聞かせていただきました。三寺参考人の伝統産業から新技術創出、これはまさにこの委員会で学ぶべきお話であったなと思っております。

また、管内外調査では、私はいつも心配をしておりましたが、太陽光パネル設置を推進する一方で、現在、使用済み太陽光パネルのリサイクル、どのようにしてそれを廃棄処分するのかということが大変社会問題化しておりましたので、八幡市で行われているリサイクル工場での見学で、このように丁寧にリサイクルされているということを実感できたことは大変大きく意義があったと思っております。

また、広島大学では、異分野の専門家が交流し研究を行うアンダーワンループ体制を採用して、自動車とカーボンニュートラルに関するコンソーシアムによる課題解決に取り組んでおられます。また一方、多様な人材育成への仕組みなどの調査や、広島県議会では、広島県が経験された大変な豪雨被災を踏まえて「D o b o x」を展開されているということは、大変すばらしい取組だなと思っております。これによって、県民、府民の方の安全な避難経路の確保など地域の防災力強化に向けた取組を改めて学ばせていただいた次第です。

また、本府においても様々な有効的な取組をされておりますが、今後、けいはんな学研都市で推進されておりますスマートシティの実証実験がより一層進んで、課題も多いと思うんですけれども、実装に向けてその課題解決をしていただきたいなと思っております。まずそれは自動運転ですよ。それがやはりこれから人材不足にも大きく貢献していくと思いますので、ぜひとも京都府としても力を入れて頑張りたいと思います。

私はこの1年間、なかなか新技術というと、うといところもあるんですけれども、いろんなことを学ばせていただき本当に有意義であったなと思います。今回、この1年間で得られた知見は、今後の府政に生かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様、本当に1年間ありがとうございます。

○田中健志副委員長

中島委員長、小巻第一副委員長、委員の皆様、理事者の皆様、お世話になりました。特に中島委員長のリーダーシップによりまして、この委員会の設置目的にあります京都産業の多様性を生かすという観点であったり、脱炭素社会の実現に向けた施策の先進的な事例の調査であったり、大変有意義な取組ができたのではないかなと思います。委員長に感謝申し上げたいと思います。

さきの委員の皆様からお話がありましたとおり、私も印象に残ったのは、管内外調査ではペロブスカイト太陽電池。実際の現場を見させていただき、開発・製造に携わっている方からの話を聞かせていただいたというのは、大変に有意義でありました。これも委員からありましたけれども、太陽光パネルというのはなかなか本府の地勢特性の中でいうと物理的な制約があつて難しい面があるのかもしれませんが、このペロブスカイトの実用化がされたら、軽量で屋根とか壁とか、本府の特性の中でも設置の可能性が広がるということだと思いますので、実用化の折には本府が率先して取り組むべきアイテムの一つであろうというふうに感じています。

それから、参考人招致の中でいうとミツフジさんの、もともと西陣織の帯の製造業を営んでおられたその経験・ノウハウを生かしてウェアラブル事業であつたり銀メッキの繊維という展開をされていて、『Forbes JAPAN（フォーブスジャパン）』という冊子の大きな賞を取られて表紙を飾られたということで、本府のものづくり企業というのは本当にすごい会社があるんだということを改めて認識させていただきました。

そうしたこの委員会の調査の結果も含めて、ただ、この委員会の目的にある京都産業の多様性と脱炭素社会の実現に向けては、まだまだ道半ば、これからだと思いますので、この1年間の委員会の実績をしっかりと生かして、今後の府政に取り組んでいきたいし、また次の委員会にもつなげていきたいと思います。

1年間お世話になりましたことを改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

○小巻久美副委員長

中島委員長、田中健志副委員長、委員の皆様、理事者、事務局の皆様にはこの1年間、大変お世話になりました。

特に印象に残ったことは、管内外調査では、太陽光パネルのリサイクル・リユースについての株式会社浜田様への視察です。2050年カーボンニュートラルの達成に向けて、再生可能エネルギーの拡大は必要不可欠です。そういった再生可能エネルギー普及の中で課題となる廃棄パネル問題に対して、同社の技術は資源循環型社会の実現に貢献する先進的なモデルでありました。

板ガラスを割らずに回収したり、割れのある太陽光パネルは不純物を取り除きガラスを主とする二次製品等に再資源化し、またリユースにも取り組んでおられ、幾つかの条件をクリアしたものは買い取り、国内外に販売され、導入コスト削減などにも寄与されておりました。また、太陽光パネルリユース・リサイクル協会を設立され、今後、多様な機関と連携され、法整備や新たな技術の研究開発などさらなる取組を進めておられました。

そして、フィルム型ペロブスカイト太陽光電池について、積水化学工業株式会社様では、軽量・柔軟で今まで設置不可能だった場所にも設置可能、低コストで大量生産できるよう取り組んでおられること、研究者や技術者が海外に流出してしまうなどの問題もお聞きしました。企業や研究機関で培われた技術やノウハウが海外に持ち出されてしまうことは、大変大きな課題であると痛感いたしました。

参考人聴取の「脱炭素社会の実現に向けた新技術の活用について」のテーマでは、新技術の普及には産業界、学术界、行政の連携が不可欠であり、民間の先端技術と公共政策との接点をいかに創出することが大切かということ。「スマート水産業の推進につい

て」のテーマでは、ユビキタス魚探などA Iを活用した技術や京都府内での活用状況について拝聴し、生産性の向上とともに若手人材の参入促進、高齢化する一次産業に対してさらなるスマート技術導入が重要であると認識いたしました。

これらを通じ、技術革新を促進するための規制緩和や支援体制の整備、新技術を担う人材育成等、今後の課題に対して大変勉強になりました。これらをさらなる議会活動に生かしていけるよう取り組んでまいります。

当事者のお話や実際に現場に行かせていただくことができて、大変有意義な1年でありました。本当に皆様、お世話になりました。

○中島武文委員長

それでは、閉会に当たり、私からも一言御挨拶を申し上げます。

昨年5月から本日に至るまでの間、小巻・田中健志両副委員長をはじめ委員の皆様方には、委員会調査や管内外調査など円滑な運営に格段の御協力をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。また、理事者の皆様方におかれましても、この間、各般行政に大変な御尽力をいただき、誠にありがとうございました。

おかげをもちまして、大過なく委員長の責務を果たせましたことをこの場をお借りしまして、委員の皆様、理事者の皆様、並びに事務局の皆様に厚く御礼を申し上げたいと思います。

さて、本委員会は主に、A I、I o Tなど先端技術を活用した新産業の創造や京都産業の多様性を生かし、人材確保策をはじめ様々な分野の課題の解決を図るとともに、脱炭素社会の実現に向けた施策について調査・研究を重ねてまいりました。

特に私自身は、1年間を通じてペロブスカイト太陽電池について理解を深めることができたのではないかなというふうに感じております。参考人を招致し、次世代型ペロブスカイト太陽電池の将来的な利用可能性について理解を深めたほか、管外調査では積水化学工業株式会社におけるフィルム型ペロブスカイト太陽電池の開発状況や今後の利活用の展望等に関する取組について先進事例を調査いたしました。ペロブスカイト太陽電池の今後の開発状況によっては、太陽光発電の利活用が大きく進むのではないかと感じるところであります。

京都府の皆様におかれましても、ペロブスカイト太陽光発電の技術革新が進む中でしっかりと状況を注視しながら、太陽光発電の普及へ向け時宜を逸することなく施策展開をいただきますようお願い申し上げます。

改めまして、理事者の皆様方におかれましては、本委員会での活動において参考人の御助言をはじめ、この1年間、各委員から出された御意見・御要望等について、今後の府政運営に向け積極的に御検討いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、委員並びに理事者の皆様方におかれましては、御健康に留意され今後ますます御活躍されることを祈念いたしまして、簡単ではありますが、私の挨拶とさせていただきます。

1年間、誠にありがとうございました。

新技術と社会づくりに関する特別委員会 管内外調査実施状況

1 管内調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 10. 5	▷ 京都スマートシティエキスポ 2023 オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
	6. 2. 3	▷ 京都環境フェスティバル 2024 オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
	2. 6	▷ ZET-summit 2024 オープニング (行催事等委員会調査)
	2. 6	▷ ZET-summit 2024 交流会 (行催事等委員会調査)
6	6. 10. 3	▷ 京都スマートシティエキスポ2024 オープニングセレモニー
	7. 2. 1	▷ 京都環境フェスティバル2025オープニングセレモニー
	2. 4	▷ ZET-summit2025 オープニング
	4. 13	▷ けいはんな万博2025 開会式

2 管内外調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 8. 28 ～29	▷ 福井県議会 ・ 福井県における生活D X推進の取組及びデジタルデバインド対策について ▷ まちづくり株式会社ZENコネクト ・ レベル4自動運転による移動サービスの取組状況について ・ 施設視察 ▷ 公益社団法人富山県農林水産公社スマート農業普及センター ・ スマート農業の推進について ・ 施設視察 ▷ アルハイテック株式会社 ・ アルミ廃棄物を活用した水素エネルギーの普及について ・ 施設視察
	6. 8. 22 ～23	▷ 株式会社浜田京都 PV リサイクルセンター〔於：八幡市文化センター〕 ・ 太陽光パネルのリサイクル・リユースについて ・ 現地視察 ▷ 広島大学デジタルものづくり教育研究センター ・ 社会実装に向けた研究開発活動と高度産業人材を育成する新たな拠点について ・ 施設視察 ▷ 広島県議会

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 土木と DX を組み合わせた DoboX の取組について <p>▷ 積水化学工業株式会社</p> <ul style="list-style-type: none">・ フィルム型ペロブスカイト太陽電池について・ 施設視察 |
|--|--|